NPI 結果・面談の記録補助票

正式な日本語版の手引き・検査用紙で実施した結果を転記し、生活場面の情報と結び付けます。質問文・領域別採点基準は収録していません。

01 評価条件

対象者ID：　　評価日：　　年　　月　　日

評価者：　　使用版・領域数：

対象期間：　　年　月　日～　　年　月　日

02 情報提供者・面接条件

情報提供者／続柄：　　同居・接触頻度：

観察できた時間帯・場所：

本人の同席／通訳・聴覚等への配慮／前回との条件差：

03 正式用紙からの結果転記

症状総得点：　　点 ／ 使用版の満点：　　点

介護者負担の結果（別記）：　　原記録の保管先：

未完了・欠損がある場合は総点を確定せず、理由を下欄に記録。

04 優先して共有する結果・具体的な困りごと

領域名・領域得点・頻度と重症度の内訳は、必要なものを正式用紙から転記。

05 未回答・判定不能・情報不足の理由と確認先

「症状なし」と「情報不足」を区別します。独自のゼロ補完・平均値補完は行わず、使用する正式版の欠損処理に従ってください。

独自の記録補助票／正式なNPI質問紙・採点票ではありません。単独で検査は実施できません。

生活場面・支援計画の記録

NPI得点とは別に、観察した事実、本人・介護者の希望、実施した支援を記録します。以下は独自の臨床メモであり、NPIの追加質問や採点規則ではありません。

対象者ID：　　記録日：　　記録者：

01 場面の事実を残す

日時・場所／直前の状況／実際の言葉や行動／その後の対応を具体的に。

02 本人の困難と介護者の困難を分ける

本人の苦痛・活動への影響：	介護者の困難・必要な支援：

03 背景・医学的確認／連絡した相手と時刻

疼痛、急な変化、服薬、睡眠、環境など。未確認事項は未確認と記す。

04 支援計画と役割分担

目標・本人の希望：

具体策／担当者／開始日：

再評価日・評価条件／確認する生活上の変化：

急な精神・行動変化はNPIの採点だけで説明せず、主治医等へ共有します。得点だけで診断・薬剤変更・リハビリの可否を決めないでください。

出典・位置づけ
NPI: Cummings JL, et al. Neurology. 1994;44:2308-2314.
NPI原著作権：© JL Cummings, 1994. 本票はSTROKE LAB独自の記録補助票。
正式版の入手：株式会社マイクロン「NPI検査用紙」案内。
再掲載条件：npitest.net/terms-of-service.html（2026年11月確認）

独自の記録補助票／正式なNPI質問紙・採点票ではありません。単独で検査は実施できません。